

1 1 学生確保の見通しなどを記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P2
(1)	学生確保の見通し	
①	定員充足の見込み	P2
②	定員充足の根拠となる調査結果の概要	
ア	学年別在学生に対するアンケート調査結果	P3
イ	卒業生に対するアンケート調査結果	P3
③	学生納付金の設定の考え方	P4
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	
①	PR活動	P4
②	経済的支援制度	P6
(3)	人材需要の動向等社会の要請	
①	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P6
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	
ア	基礎となる研究科への求人実績	P7
イ	大学院教育に対する要請	P7
ウ	卒業生に対する採用意向	P8
資料1	進学需要に関するアンケート調査集計結果（在学生）	
資料2	進学需要に関するアンケート調査（卒業生）	
資料3	近隣大学の学生納付金	
資料4	大学院工学研究科修士課程学会出席状況	
資料5	管理工学専攻求人社数	
資料6	人材需要に関するアンケート調査	

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

従来までの管理工学専攻においては、教育研究上の目的が異なる情報システム工学科とシステムマネジメント学科の卒業生が、同専攻内で学びを得ることへの違和感が、近年の学部学生から大学院進学に関心を遠ざけた要因のひとつとしてあげられる。専攻名称および教育研究上の目的ならびに養成すべき人材像に関する記述を情報システム工学科で教授された知識と技術を深化的に発展させる内容へと一新することで、これまでの学生の懸念を払拭し、情報システム工学科卒業生をはじめ在職履修を望む社会人を含めた学生が情報システム工学専攻への入学を希望することが予想される。

そこで、学生確保の見通しを立てるために、平成27年1月に、情報システム工学専攻の設置趣旨および教育目標、育成する人材像、専修区分の概要などを明示して、本専攻への進学に関する意識調査アンケートを実施した。同様に情報システム工学科卒業生ならびに関連するIT系企業を対象にアンケートを実施した。アンケート調査の結果を踏まえ、学生確保の見通しに関する考察および専攻設置以降の学生確保に向けた具体的な取り組みについて以下に記す。

(1) 学生確保の見通し

①定員充足の見込み

日進月歩発展を続ける情報技術は、様々な形で我々の日常生活に溶け込んでいる。特に、タブレット端末やスマートフォンなど、学生の学業への取り組みを円滑にするために重要な役割を果たしている。今後社会に資する情報システムの設計・開発・管理・運用などの業務に技術者として携わっていくためには、情報技術を基盤とするものづくりの知識と技術を備えておく必要がある。情報システム工学科の学生においては、既設の管理工学専攻であったが故に、こうした知識と技術を深く学ぶ十分な環境を持ち合わせていなかった。本申請による情報システム工学専攻の設置により、学部教育で身につけた情報システム工学に関する知識と技術を深化的に発展させる環境が新たに用意されることになる。少子高齢化を迎える我が国に対して技術者として貢献することを志す学部学生や卒業生、関連企業者にとっては、身近な環境で高度な学習の機会を得る絶好の機会となる。福岡工業大学は、県内の18歳人口が低下傾向にあるこの数年間において、志願者数を伸ばし続けており、それに伴って入学者の基礎学力や人間力も徐々に高まってきている。その証拠に、情報システム工学科は、平成27年度より入学者定員を10名増やしており、学部4年生の就職率は2年連続で90%を超えている。また、成績優秀者の大学院進学者も微増し（平成26年度入学生2名、平成27年度入学予定者3名、平成28年度入学希望者5名）、平成26年度には協定校である中国の青島科技大学より外国人留学生を1名受け入れている。大学院を実質的に運用する情報システム工学科教員もこの6年間で半数が入れ替わり、情報システム工学に関する先端研究に携わる研究者も増えた。学科内の雰囲気は、教育重視型から、いわば「研究を軸とする教育」の型へとシフトしており、学生間の意識にも変化が現れており、卒業研究で実施される内容は年々高度化している。

このように管理工学専攻の体制のままでも、数年の間に 8 名の定員数を満たすことは不可能ではないと考えるが、情報システム工学専攻として設置することになれば定員 8 名の枠を充足する見通しは十分である。

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

ア. 学年別在學生に対するアンケート調査結果【資料 1】

情報システム工学専攻修士課程の設置を計画するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、本学の情報システム工学科に在籍している 3 年生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。

その結果、平成 27 年 1 月現在の学部 3 年生では、すでに大学院進学を希望する学生が 5 名いることが確認された。そのうち、2 名は本学大学院進学奨励金受給予定者（奨励金制度についての詳細は 6 頁）である。また、本専攻への興味・関心についての質問には、「非常に興味がある」と答えた学生が 9 名、「興味・関心がある」と答えた学生が 27 名であった。これらの学生については、これから卒業研究への取り組みの中で、情報技術者に求められる素養を補う必要性を実感することにより、大学院進学を進路として選ぶ可能性が見込まれる。

次に、学部 2 年生のアンケート結果によると、すでに大学院進学を希望する学生が 5 名おり、学科の上に設置された大学院教育への必要性を理解している学生が 59 名である。また、また、本専攻への興味・関心についての質問には「非常に興味がある」と答えた学生が 9 名、「興味・関心がある」と答えた学生が 44 名であり、学部 3 年生の回答数を上回った。これらの学生についても、卒業研究への取り組みの中で、大学院への進学を進路として選ぶ可能性が見込まれる。

学部 1 年生のアンケート結果には、すでに大学院進学を希望する学生が 21 名おり、大学院設置の必要性を感じている学生が 47 名、興味関心を示す学生が 44 名であった。学部 1 年生の学生が、2、3 年生よりも高い進学意識を持っている理由として、入学志願者の基礎能力の向上に加え、平成 26 年 4 月に実施されたキャリア形成（1 年生、必修 2 単位）の講義において、専任教員が大学教育の必要性と大学院修了者への社会的な需要について講話したことが考えられる。平成 26 年度以前は、新入生に対して早い段階で大学院進学の意味を伝える機会を用意していなかったため、この度実施した在學生へのアンケート調査により、専任教員による大学院進学に関する講話の効果が明らかになった。

イ. 卒業生に対するアンケート調査結果【資料 2】

情報システム工学専攻修士課程の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、本学の情報システム工学科の過去 5 年以内の卒業生を対象とした進学需要等に関するアンケート調査を実施した。無作為抽出した 96 名に調査票を送付し、得られた回答は 5 通であった。

情報システム工学専攻における教育内容について、「必要性を感じる」が 3 名、「わからな

い」が2名であった。情報システム工学専攻に対する興味・関心は、「興味・関心がある」が2名、「興味・関心がない」が2名、「わからない」が1名であった。また、専攻設置後に受験を希望するかについては「受験を希望しない」が5名であった。しかし、仮に合格した場合に「進学先の一つとして考える」の回答が1名あった。

アンケート調査の対象となった卒業生は、学部4年次の早期に進学と就職の選択を迫られたが、結局は管理工学専攻で学ぶ内容に興味・関心を抱くことなく就職した学生である。この度のアンケート調査の回答に際して、勤務する企業内に大学院修了者がおり、彼らとの知識や技術の差を、現場での仕事を通して感じ取っているならば、情報システム工学専攻への興味・関心を抱くであろうことも予想されたが、「興味・関心がある」が2名であることは、専攻設置後の数年間における定員充足を見込む対象として除外しておくの方が望ましいと判断できる。

③学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び大学院の運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、福岡県内において同系統分野の大学院を設置している国・私立大学（福岡大学工学研究科、九州産業大学工学研究科、九州工業大学工学府前期課程、西日本工業大学工学研究科）の学生納付金の設定状況を参考にしうえて、完成年度における教育研究経費比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学及び大学院の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。【資料3】※近隣大学の学生納付金

本学では「For all the students」を経営理念に、教育の質向上と施設・設備など、環境の充実に注力する一方で、経営の効率化に徹底し、「低学費政策」を堅持している。これは学部においても初年度納付金が全国の私立大（工・理工学部）で6番目の低額として評価され、様々な取り組みと合わせて9年連続で志願者を伸ばしていることに、その妥当性が表れている。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

① PR活動

学生確保に向けた具体的な取組状況としては、大学案内や学生募集用パンフレットの配布をはじめ、本学在学生及び他大学在学生をはじめ、卒業生や社会人向けの一般広報紙媒体による広報活動の他、ホームページ等の電子媒体など、多数のメディアを使用したPR活動を行うとともに、これまで卒業生の採用実績のある企業等を中心として、積極的な情報の提供を行うこととしている。

また、オープンキャンパスや大学院見学会をはじめ、進学希望者に対する進学相談会などの開催を通じて、工学研究科情報システム工学専攻における学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針をはじめとする様々な教育情報について、広報することとしている。

この他、学年別の具体的な取り組みは以下のとおり。

学年	取り組み内容
1年	キャリア形成（情報システム工学科1年生前期必修2単位）とフレッシュマンプログラム（情報システム工学科1年生前期必修2単位）の早い段階で、専任教員による情報システム工学専攻の概要説明と進学意義についての講話会を実施する。講話会には、専任教員および大学院生、大学院事務員が参加し、入学生への直接的な呼びかけにより進学意識を刺激する。また、物理情報実験（情報システム工学科1年生後期必修2単位）においては、大学院生TAを積極的に導入し、課題解決への取り組みを通して大学院進学への意識涵養を図る。
2年	情報システム工学実験Ⅰ・Ⅱ（情報システム工学科2年生前期必修2単位、後期必修2単位）において、大学院生TAを積極的に導入し、課題解決への取り組みを通して大学院進学への意識涵養を図る。また、キャリア形成で培った自己認識から社会認識につなげるフューチャープランニング（情報システム工学科2年生前期必修2単位）において、大学院を修了した技術者を講師に招聘し、「大学院修了技術者の役割と責任」について講話会を実施する。
3年	年度初めに開催される学年別オリエンテーションにおいて、卒業後の進路選択について説明する際、情報システム工学専攻および修了者の社会的な意義について整理した内容を教授し、進学意識をさらに刺激する。情報システム工学実験Ⅲ・Ⅳ（情報システム工学科3年生前期必修2単位、後期必修2単位）では、研究室に配属され、それぞれの研究室で取り扱う研究テーマに関連する内容が実験テーマとして与えられる。研究室の配属方法は、大学院進学希望者が優先的に特別研究指導の有資格教員の研究室を選択できるように配慮する。大学院進学に興味・関心のある学生が、より前向きに進学を希望するように、同専修区分に配置された教員は定期的に研究室合同の研究会を開催するなどして、専修区分内の研究活動を活発化させる。
4年	就職志望の学生に企業内定が認められる8月までに、大学院推薦試験が実施され、10月初旬に一般入試が実施される。年度初めに開催される学年別オリエンテーションにおいて、就活の内定時期と一般入試での大学院進学決定の時期の差について明確な情報を与え、就職と進学を決めかねている学生に整理された情報を提供する機会を設ける。特に優秀な学生が、自身の資質に見合った進路選択ができるように、学生の進路指導実績のある外部講師を招聘し、卒後進路について考える講演会を5月末までに実施する。

このような取り組みに刺激されて進学した学生が、学生実験におけるTAや各種講話会への出席を通して、学部学生らと交流していくことで、学部学生は大学院での学生生活を身

近に感じることができ、より安心して大学院進学を進路として選択しやすくなると考えられる。また、大学院学生の増加は、学科教育における知識と技術の蓄積であり、自ずと卒業研究で実施される内容も高度となり、大学院への進学意欲が刺激される機会が増えることになる。このように、学部学科で教授された教育研究を純粋に深化発展する大学院専攻を設置し、その社会的意義を正しく学部学生に浸透させていくことで、学科学生の意識を情報システム工学専攻に向けてことができ、継続的に定員以上の学生が志願する専攻に成長していくことが予想される。

②経済的支援制度

安心して進学するため経済的支援の充実は、欠かせない制度である。次に掲げる制度は既に運用しているものであるが、今後はさらに充実した支援制度となるよう見直しを図り、志願者獲得に繋がるよう周知を図る予定である。

ア．学業優秀者に対する奨励金制度

本学の学生支援制度として、平成 28 年度より各専攻の入学者 2 名に対して奨学生制度を導入する。これは学部 3 年生前期終了時に、成績上位 10 名を対象として選抜された大学院進学意志ある学生 2 名に対して、大学院進学後に月額 8 万円を給付するものである。

イ．学業特待生制度

学業優秀な学生に 1 学年 8 名の範囲内で、授業料の半額（26 万円）を免除する制度。本届出が承認されれば、入学定員が増加することになるため、増員を検討中である。

ウ．経済的困窮者への奨学金制度

私立大学の授業料は、国立大学と比較して高く、授業料を苦に大学院進学を諦める学生がいるのも事実である。そうした学生を対象に、福岡工業大学同窓会奨学生の制度があり、数名に対して授業料の半額（26 万円）が給付される。

エ．丁寧な学部教育を目指す試みとして、大学院生を講義 TA として雇用する制度が既にあり、TA 採用者には時給 2,500 円が支給される。

オ．大学院生の特別研究指導教員には、特別研究指導費が研究費として配分され、これを大学院生の学会発表などの費用に充てることができる。最近 3 年間の学生の学会活動状況を添付するが、国内外で開催される学会において旅費や宿泊費等を支援するこの制度は学生の研究業績の向上に大きく影響している。【資料 4】※大学院工学研究科修士課程学会出席状況

（3）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

ア．教育研究上の理念・目的

近年の急速な科学技術の進歩は、産業の発展をもたらし、人々の生活に多くの影響を与えており、一方では、地球規模の環境問題等、従来の自然科学の分野の枠組みだけでは、解決することが困難な問題があらわれている。このような科学技術の社会における

重要性の増大に伴い、これからの社会や産業界では、自然科学のそれぞれの分野での専門的な知識に加えて、諸分野に幅広い視野をもつ研究者、技術者及び研究管理・調整のための人材が求められている。

このことから、工学研究科情報システム工学専攻修士課程では、自然科学に関する高度基盤知識及びその応用能力を身に付け、グローバル社会における技術関連分野で中核となり得る人材を養成することとしている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア. 基礎となる研究科への求人実績

情報システム工学専攻修士課程の基礎となる既設の工学研究科の管理工学専攻に対する最近5年間の求人件数は、平成22年度744件、平成23年度754件、平成24年度749件、平成25年度845件、平成26年度1,011件となっており、順調に求人が増えている。

このことは、既設の工学研究科の管理工学専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであると考えられる。**【資料5】**※基礎となる既設の管理工学専攻に対する求人状況

今般の情報システム工学専攻修士課程の設置計画は、中央教育審議会答申等で示されている大学院教育の方向性を踏まえるとともに、学術研究の進展に伴う情報システム工学分野の高度化への対応も踏まえて、既設の工学研究科管理工学専攻修士課程の教育組織と教育内容を基盤として発展的に改組再編することから、人材需要の動向等社会の要請により応えるものであると考えられる。

イ. 大学院教育に対する要請 **【資料6】**※人材養成に関するアンケート調査

情報システム工学専攻修士課程の設置を計画するうえで、情報システム工学専攻修士課程の設置及び養成する人材が地域的な需要の動向等を踏まえたものであることについて検証するために、福岡県内に所在する企業を対象として、「情報システム工学分野の大学院教育の必要性」及び「情報システム工学系大学院への進学需要」並びに「本学に情報システム工学専攻修士課程を設置することの必要性」についてのアンケート調査を実施した。

その結果、「情報システム工学分野の大学院教育の必要性」については、回答件数40社のうち14社が「非常に必要性を感じる」と回答しており、「必要性を感じる」と回答している20社と合わせ、34社がその必要性を認めている。

また、「情報システム工学系大学院への進学需要」については、回答件数40のうち9社が「大きく拡大する」と回答しており、「拡大する」と回答している23社と合わせると、32社が進学需要の拡大を認めている。

一方、「本学に情報システム工学専攻修士課程を設置することの必要性」については、回答件数40社のうち17社が「非常に必要性を感じる」と回答しており、「必要性を感じる」と回答している19社と合わせると、36社がその必要性を認めている。

このような福岡県内に所在する企業に限定した調査結果においても、情報システム工学専攻修士課程が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると考えられる。

ウ．卒業生に対する採用意向

情報システム工学専攻修士課程の設置を計画するうえで、情報システム工学専攻修士課程において養成する人材に対する企業の採用意向について検証するために、福岡県内に所在する企業を対象として、情報システム工学専攻修士課程を修了した者への採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、回答件数38社の約40%にあたる15社が「採用したい」と回答しており、「採用を検討したい」と回答している18社までを含めると全体の約86%にあたる33社が修了生の採用に積極的な意向を示している。

このような福岡県内に所在する企業に限定した調査結果においても、情報システム工学専攻修士課程で学んだ人材への需要は高いことが認められることから、修了後の進路は十分に見込めるものと考えられる。

【資料 1】

1 年生 情報システム工学専攻修士課程（仮称）の進学需要に関する アンケート調査集計結果

回答者数 83名

問1 在籍学年

1. 4 学年	2. 3 学年	3. 2 学年	4. 1 学年	合計
0	0	0	83	83

問2 学部卒業後、どのような進路を考えているか

1. 就職	2. 大学院進学	3. その他	合計
61	21	1	83

問3 情報システム工学分野における大学院教育について、どのように考えているか

1. 非常に必要性を感じる	2. 必要性を感じる	3. 必要性を感じない	4. わからない	合計
4	43	5	31	83

問4 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に、興味・関心があるか

1. 非常に興味・関心がある	2. 興味・関心がある	3. 興味・関心がない	4. わからない	合計
5	39	19	20	83

問5 情報システム工学専攻修士課程（仮称）が設置された場合、受験を希望するか

1. 受験を希望する	2. 受験先の一つとして考える	3. 受験を希望しない	4. わからない	合計
1	35	26	21	83

問6 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に合格した場合、進学を希望するか

1. 進学を希望する	2. 進学先の一つとして考える	3. 進学を希望しない	4. わからない	合計
3	46	17	17	83

問7 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に対する意見・要望等

- ・ BMI について研究して欲しい。
- ・ 行ってみたいが、成績が足りない。
- ・ 一つの事に特化していて良さそうだが、想像できない。

2年生 情報システム工学専攻修士課程（仮称）の進学需要に関する
アンケート調査集計結果

回答者数 95名

問1 在籍学年

1. 4学年	2. 3学年	3. 2学年	4. 1学年	合計
0	0	95	0	95

問2 学部卒業後、どのような進路を考えているか

1. 就職	2. 大学院進学	3. その他	合計
86	5	4	95

*「3 その他」具体的に

- ・決まっていない
- ・その時の家の経済状況による
- ・考え中

問3 情報システム工学分野における大学院教育について、どのように考えているか

1. 非常に必要性を感じる	2. 必要性を感じる	3. 必要性を感じない	4. わからない	合計
6	59	8	22	95

問4 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に、興味・関心があるか

1. 非常に興味・関心がある	2. 興味・関心がある	3. 興味・関心がない	4. わからない	合計
9	44	28	14	95

問5 情報システム工学専攻修士課程（仮称）が設置された場合、受験を希望するか

1. 受験を希望する	2. 受験先の一つとして考える	3. 受験を希望しない	4. わからない	合計
4	37	26	28	95

問6 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に合格した場合、進学を希望するか

1. 進学を希望する	2. 進学先の一つとして考える	3. 進学を希望しない	4. わからない	合計
10	47	17	21	95

問7 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に対する意見・要望等

- ・今まで就職とっていたけど、選択が増えた。
- ・大学院にも留年があるのですか？
- ・今までなかった修士課程なので大きな希望があると思う。
- ・大学院への進学やその必要性を学期末の親と学長との面談で話して欲しい。
- ・自分の好きなことが出来るので、楽しいと思う。
- ・もう少し情報が欲しいと思った。
- ・正直まだ分からない。
- ・今回の講話を聞いていて、人生の選択の一つとして深く考える良い機会となった。また、大学院や社会の状況についても知ることが出来た。
- ・このことに対する、人や企業によって捉え方が違うかなとも思いました。
- ・進学先の一つとして考えています。ですが、生活費はなんとかかなるかもしれませんが、学費を払える気がしません。まだそんなに考えもないので、この先の事はわかりませんが。

3年生 情報システム工学専攻修士課程（仮称）の進学需要に関する
アンケート調査集計結果

回答者数 95名

問1 在籍学年

1. 4学年	2. 3学年	3. 2学年	4. 1学年	合計
0	95	0	0	95

問2 学部卒業後、どのような進路を考えているか

1. 就職	2. 大学院進学	3. その他	合計
85	5	5	95

*「3 その他」具体的に

- ・迷っている
- ・分からない
- ・教師

問3 情報システム工学分野における大学院教育について、どのように考えているか

1. 非常に必要性を感じる	2. 必要性を感じる	3. 必要性を感じない	4. わからない	合計
10	43	11	31	95

問4 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に、興味・関心があるか

1. 非常に興味・関心がある	2. 興味・関心がある	3. 興味・関心がない	4. わからない	合計
9	27	45	14	95

問5 情報システム工学専攻修士課程（仮称）が設置された場合、受験を希望するか

1. 受験を希望する	2. 受験先の一つとして考える	3. 受験を希望しない	4. わからない	無回答	合計
5	24	46	17	3	95

問6 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に合格した場合、進学を希望するか

1. 進学を希望する	2. 進学先の一つとして考える	3. 進学を希望しない	4. わからない	無回答	合計
10	39	29	14	3	95

問7 情報システム工学専攻修士課程（仮称）に対する意見・要望等

- ・今までみたいに、いくつかの科が合同ではなくなるのは分かりやすく良いと思う。
- ・メリットがよく分かりません。
- ・他大学の院ではなく、福工大の院にそのまま進学できるのは、とても良いと思います。
- ・大学院に行って深く研究したい分野がないので、あまり進学したいと思わない。
- ・本当に将来技術者を輩出するのが目的であれば、設置した方が良いと思うが、中途半端であれば、必要ないと思う。
- ・就職するために大学へ入学したので、大学院は自分にとって対象外です。
- ・就職に有利になるが、お金がかかってしまうのが難点だと思う。
- ・説明会など、もっと詳しい説明をしてくれる場を設けるべきだと思う。
- ・やはり研究室によって力を入れているところとそうでないところがあるのですか？
- ・学費面（安くしてほしい）。

【資料 2】

情報システム工学専攻修士課程(仮称)の進学需要に関するアンケート調査
回収率 5/96(%)

質問項目	回答人数	理由等
1 あなたの卒業年次について、お伺いします。		
平成 23 年 3 月 以前卒業	人	/
平成 24 年 3 月 卒業	人	
平成 25 年 3 月 卒業	1 人	
平成 26 年 3 月 卒業	4 人	
	5 人	
2 あなたは、情報システム工学学分野における大学院教育について、どのようにお考えですか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。		
非常に必要性を感じる	人	/
必要性を感じる	3 人	
必要性を感じない	人	
わからない	2 人	
	5 人	
3 あなたは、福岡工業大学の情報システム工学専攻修士課程(仮称)に、興味・関心がありますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。		
非常に興味・関心がある	人	/
興味・関心がある	2 人	
興味・関心がない	2 人	
わからない	1 人	
	5 人	
4 あなたは、福岡工業大学の情報システム工学専攻修士課程(仮称)が設置された場合、受験を希望しますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。		
受験を希望する	人	/
受験先の一つとして考える	人	
受験を希望しない	5 人	
わからない	人	

		5 人	
5	あなたは、福岡工業大学の情報システム工学専攻修士課程(仮称)に合格した場合、進学を希望しますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。		
	進学を希望する	人	/
	進学先の一つとして考える	1 人	
	進学を希望しない	4 人	
	わからない	人	
		5 人	
6	情報システム工学専攻修士課程(仮称)に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。		
	特になし		

【資料3】

近隣大学の学生納付金

(単位：円)

大学・研究科名		入学金	授業料（年間）	その他
福岡工業大学	工学研究科	150,000 (学内進学者は 免除)	520,000	170,000 (設備 費) 62,000 (実験実 習費) 20,000 (図書費)
福岡大学	工学研究科	240,000 (学内進学者は 120,000)	630,000	140,000 (教育充 実費) 3,500 (委託徴収 金)
九州産業大学	工学研究科	110,000 (学内進学者は 免除)	617,000	221,000 (教育充 実費) 1,000 (委託徴収 金)
九州工業大学	工学府前期課 程	282,000	535,800	11,750 (学内進 学者諸経費) 39,750 (学外進 学者諸経費)
西日本工業大 学	工学研究科	100,000	588,000	231,000 (教育充 実費) 1,750 (委託徴収 金)

【資料4】

大学院工学研究科修士課程 学会出席状況

平成26年度

専攻名		学生数	出席者数	出席率	出席率平均	出席回数	
						発表	参加
工学研究科 合計	1年	54	38	70.4%	78.0%	73	2
	2年	63	54	85.7%		91	6

平成25年度

専攻名		学生数	出席者数	出席率	出席率平均	出席回数	
						発表	参加
工学研究科 合計	1年	64	42	65.6%	75.6%	77	8
	2年	62	53	85.5%		100	6

平成24年度

専攻名		学生数	出席者数	出席率	出席率平均	出席回数	
						発表	参加
工学研究科 合計	1年	63	43	68.3%	70.7%	73	8
	2年	67	49	73.1%		79	8

【資料 5】

管理工学専攻 求人社数

	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
求人数	744	757	749	845	1,011

【資料 6】

情報システム工学専攻修士課程(仮称)の人材需要に関するアンケート調査

回収率 40/106(38%)

	質問項目	回答人数	理由等
1	あなたは、情報システム工学学分野の大学院教育について、どのようにお考えになりますか。次の中から、一つだけ選んで、回答欄に番号を記入してください。		
	非常に必要性を感じる	17 人	
	必要性を感じる	19 人	
	必要性を感じない	1 人	
	わからない	3 人	
		40 人	
2	あなたは、今後における情報システム工学工学系大学院への進学需要について、どのようにお考えになりますか。		
	大きく拡大する	9 人	
	拡大する	23 人	
	拡大しない	2 人	
	わからない	6 人	
		40 人	
3	あなたは、福岡工業大学の情報システム工学専攻修士課程(仮称)について、どのようにお考えになりますか。		
	非常に必要性を感じる	14 人	
	必要性を感じる	20 人	
	必要性を感じない	人	
	わからない	6 人	
		40 人	
4	あなたは、福岡工業大学の情報システム工学専攻修士課程(仮称)で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。		
	採用したい	15 人	
	採用を検討したい	18 人	
	採用は考えない	人	
	わからない	5 人	

その他(具体的に)

2 人

・人物によります。

・システムの担当は現在 1 名在職している(御校出身者)さらに必要となったとき採用を検討する場合があります。

40 人

5 情報システム工学専攻修士課程(仮称)に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。

・先端技術を研究するだけでなく、今後の社会に役立つアイデアを出せる学生が育ってほしいと同時に、そのアイデアを具体的に実現できる技術力を磨ける内容にして欲しい。

・学会や国際シンポジウム等への積極的に参加、発表し、幅広い知見と決定力のある人材を育成して頂きたい。

・将来を見据えた人材育成は必要だと思います。優秀な学生の育成を期待します。

・少子高齢化が収束しない社会を、新しいシステムを導入しどこまで役立てて行けるか提案できる人材がいるとシステムハウスとしても非常に助かります。作成したシステムをより多くの人々の生活向上に取り入れてもらえるよう、論理的な思考・柔軟な発想が必要と感じます。

・病院によっては臨床工学の技師を配置しているところもあります。但し、全体的に少ないようです。大学院での研究が役立つと思われます。

・今後の日本の課題となる少子高齢化に伴う人手不足を補うための無人化(ロボット)や医療・福祉に広がる生体情報などの知識を保有する人材は、産業界にとっては貴重な存在となられることでしょう。

学部で学んだ知識に加え、より高度で専門的な技術者を育成して欲しい。3つの専修分野は最先端技術者として位置づけられ、日本の少子高齢化の対策にも大いに貢献する技術者として期待します。さらに、知識・技術の習得のみならず、自己中心の行動ではなく他人にも心配りできる人格形成についてもご配慮をお願いしたい。

H27. 1. 15 現在